

芭蕉

観世流謡曲 元和卯月本

47-001

47 芭蕉

国立国会図書館





夢のいもろこし 夢國乃るこころ
 ぞうもいもろこし 山居する僧
 ろくそん我法華持經乃牙ふまは
 目長朝言和浄經を讀あり作
 ごとららとハ 杖乃ふり 月乃ま
 かりと たる事ふり 後
 ありまあるなり 杖此中ふ



我がくさくさな人ものあはれ
よき〜 後継り打音書室乃
何とぞよりのとあはれし作
いとわも来りて〜 なる女もの
うと名を尋ねし存る作
既ナシ夕陽西よりつらら出るる
かき涼〜 して暑るる也 幽子

おとよき 上 びるる也 ちほり
海乃と〜 月子あり行山陰表
静寂とあり茶乃戸子此の經を
讀誦する カサ 芭蕉子むらて
松乃と〜 けりるる也 乃破
〜 風〜 ちほりるる也 乃破
〜 月〜 ちほりるる也 乃破

三廿
しに興行の事は信者成るはも
あはるまは法をふたにとらき
礼をふ一縁をふりつちあお
下
もも海をいしまつらまは行
をうぬいさかひ言の榮草乃
厚らうらと露のまありと法の
たぬ縁よかひをいそとふ

廿
笑の法乃縁の誠よ妙ある
法事あれを去ふうらふるく
あうらる女めあまはそと
宿ままいふは三廿思ふ心
らる事あれを余可人あはる
我の又信家の家うきとら
廿
たふ一流きをくしとたふあ



地まの縁よもる 女 一樹の陰を
 萱草の 上言 ねま ま 月も
 かりぬる露乃宿 行も けり
 もある寺の愁い崖寺乃ある
 飯 た ま ま おい山行 み あり
 くま ま 月乃影も ま あり
 唯 の 蘭省のたに乃時錦 花

乃も い 廬山乃雨の夜 草 席
 の ら 思 い 乃 い 春乃
 深 き 乃 い 佛經 後 誦乃 程 うち
 佛入 く 女 乃 い 入 ま 乃 い 作
 包 い 乃 い 有 難 や 此 佛經 を 聽
 中 い 乃 い 我 ま 乃 い 非 精
 草 木 乃 い 乃 い 乃 い 乃 い

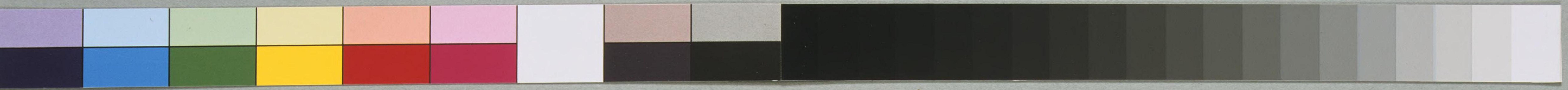


よくく^印安らく湯^印穂^印守^印作^印物^印水
唯一念^印隨^印喜^印の^印信^印心^印あり^印た^印も^印一切^印非^印
精^印草^印木^印の^印た^印く^印は^印ま^印て^印も^印あ^印ら^印ず^印
る^印こ^印の^印た^印く^印ま^印 木^印の^印対^印は^印ま^印る^印
物^印は^印ら^印そ^印く^印草^印木^印は^印は^印ら^印ず^印
ま^印と^印れ^印も^印志^印は^印り^印 終^印へ^印 藥^印草^印
命^印は^印あ^印ら^印わ^印て^印 草^印木^印は^印固^印く^印有^印精^印

非^印精^印も^印あ^印ら^印ず^印是^印諸^印法^印は^印相^印乃^印
草^印乃^印瓦^印や^印 若^印乃^印名^印音^印 地^印乃^印を^印
あ^印ら^印わ^印寺^印井^印乃^印ら^印く^印こ^印の^印心^印も^印ま^印る^印
打^印つ^印ら^印ず^印 火^印を^印宵^印を^印て^印出^印し^印
月^印乃^印本^印乃^印ら^印く^印子^印懐^印乎^印乃^印ら^印ず^印
よ^印の^印こ^印の^印あ^印ら^印ず^印も^印法^印乃^印を^印て^印夫^印
ぞ^印乃^印ま^印あ^印ら^印ず^印乃^印ら^印く^印乃^印ら^印ず^印

つら底乃れもの雪衣中の芭蕉乃
づつれる海乃まことと見しは
るふしきと思ひ鐘乃志諸
行無常とありまきわ
らそいさ乃らみせさるうた
まら海とあつゝ類ひもあま
芭蕉乃女とありしを教へり

うまあれ^上是法乃まこと
うもたふる法乃場^下そのんを
わつたあま^下あま^下乃
まこと底のたもあ^上る義や
あふる法衣^下まことあま
まきあつ優曇花乃てあま



たる昔蕉塔乃百法ある何れも
 けしむる露のりこもさうく系
 身乃人衣乃すも汗もせよ
 上
 ちまわつりまぬれと祀も
 ちま
 芭蕉乃露のりまらる
 下
 夜乃もせ山陰のりこ
 下
 ねし柳ももふすまらぬのあり

たる昔蕉塔乃百法ある何れも
 けしむる露のりこもさうく系
 身乃人衣乃すも汗もせよ
 上
 ちまわつりまぬれと祀も
 ちま
 芭蕉乃露のりまらる
 下
 夜乃もせ山陰のりこ
 下
 ねし柳ももふすまらぬのあり

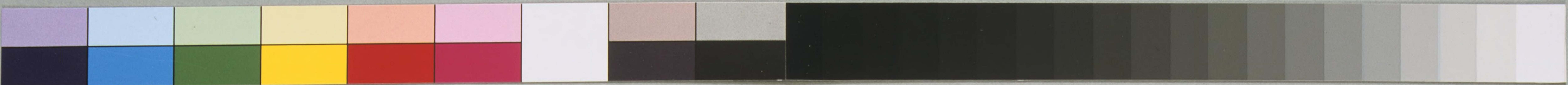


しき 女 具流名音ハらあやまら
けりらるる女ハあくらけり 女 づらも
系本もあやまらるる家 女 づらあ
り 女 ともあ 女 秋 女 と
き 女 める精非精も 女 づら
ある 女 津もあ 女 づら 女 思 女 づら
し 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら

芭蕉乃をんあ 女 の衣 女 づら 女 づら
花 女 づら 女 あ 女 め 女 づら 女 袖 女 づら 女 づら 女 づら
あ 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら
あ 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら
あ 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら
あ 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら
あ 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら
あ 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら
あ 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら
あ 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら 女 づら

一転いりきて心言りまのこせき
せ乃日影とくそ楊梅桃李す
かともかき音ようゆる心まて
諸法実相備もあしあまら
寺樓老いまつ月とる家あり陽
子向ふ花は又まよふあり
やせういさひ具もつちも梅の

笑見の前は面白やふまはる夏
たきねるのり言つては庭を
たきつらまうとまうとみかた
秋とまはるりやいある寺乃行
の草昔あまはると古くも花と
あつらふともよのこ色蒼々あも
るくもむつる露のやい直とる



観世流謡曲 元和卯月本

47-015

47 芭蕉

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

47-016

47 芭蕉

国立国会図書館

